発達障害の人たちに対する学習指導のポイント

ー彼らとの人間関係を構築するためのヒントー

熊本大学教育学部
附属教育実践総合センター
高原朗子

発達障害について
「特殊教育」から「特別支援教育」への転換

- 障害からニーズへ
- １．５%から7%へ

多くが通常の学級に在籍
（６．５%くらい　H24年度調査）

発達障害とは

自閉症，アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害，学習障害，注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの

平成17年4月施行　発達障害者支援法

発達障害のタイプ

- 自閉性障害（Autistic Disorder)
- アスペルガー障害
  （Asperger’s　Disorder）

→現在は統合されて自閉症スペクトラム障害に！

- 学習障害（Learning　Disability）
- 注意欠陥/多動性障害（Attention　- Deficit　/ Hyperactivity Disorder)

自閉症スペクトラム障害

1．対人的相互反応における質的な障害
2．行動･興味および活動の限定され反復的で常同的な様式

学習障害（LD)

全般的な知的発達の遅れはない。
聞く、話す、読む、書く、計算するまたは推論する能力のうちの特定のものの習得と使用に困難を示す。
その原因として中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害･聴覚障害･知的障害･情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

注意欠陥/多動性障害
（ADHD)

- 不注意
- 多動性
- 衝動性

自閉症スペクトラム障害

- 2013年よりDSM-5（精神疾患の分類と診断の手引き　改訂版）では、広汎性発達障害は自閉症スペクトラム障害となる。
- 〈自閉症とアスペルガー障害の区別はなくなる〉

診断される時

- その人が社会不適応の状態にあり、その主たる要因が発達障害の特性による時（本田2013）

⇒　素人が安易に発達障害と決めつけてはいけない。不適応かどうか、診断されることによって本人の問題が改善されるかどうかによって判断すべき。

基本的な知識

- 脳の機能障害に基づくハンディキャップ（心因論は否定されている）
- それぞれの関連性
- 診断された事例（100人に1～10人いる、男子の方がやや多い）

当事者研究

- 高機能自閉症者やアスペルガー障害者自身による回想や自著伝

↓

我々の知覚・意識とは異なった体験世界

本人たち（Aさんなど）が表現したことで、気づいていない本人たち（Bさんなど）やその家族が気づき出した

当事者の回想より

- 人に近寄られるのは好きではなかった
- 人の目を見ると話がわからなくなってしまう
- 目でものをいう事をわかったのは40歳過ぎてからであった
- 人の顔自体を覚えられない

当事者の回想より（学校教育の工夫）

- 印刷物は白紙に黒いインクではコントラストが強すぎて読みにくい
- 蛍光灯の照明は、微細な点滅を生じるので自閉症にはつらい
- 些細な音でも大きく聞こえてしまう

当事者の回想より（学校教育の工夫）

- 教室と廊下の境目の区別ができるようになるのは高学年になってから
- 小学校の教科書のフォントは筆字に似ていたので顔に見えて面白すぎた

思春期以降の発達障害者の思い

15/03/09 15

様々な証言より

- 空気が読めないと言われることが多い
- 他の人の気持ちがわからないことが多い
- 団体行動はどちらかというと苦手
- 頑固で理屈っぽいと言われることが多い

様々な証言より

- 初めてのことが苦手
- やる気があるのに、そのように見られないことが多い
- 同時に二つ以上のことを言われると混乱する
- 記憶がいいが、記憶が消せないことがあり困る

様々な証言より

- しゃべることが苦手、言いたいことがとっさに思い浮かばない事が多い
- 情報の無差別な取り込みがあり余計なことを記憶してしまう
- 夢（思い）と現実が混同し「連想ゲーム」がはじまると止まらなくなる

生活の困難さ

- 独特な言動のためにいじめられたり、からかわれたりすることが多い
- 困ったときに他者に適切に助けを求められない
- 周囲から孤立し、被害者意識が強まる

保護者や関係者を支援するには（何を伝えるか）

- 適切に支援することの重要性

  「がんばり過ぎず、ほどほどがよい」ことを伝える

  「マニュアルを頼らない」よう伝える

  過保護でも放任でも問題あり
- 子どもたち・本人たちの持っている力を信じるよう親に働きかける

家族やその他の人との人間関係の在り方

- 人間関係の基本は、自分の気持ちを知ること表現すること（自我の確立）と、他者への思いやりの気持ち・他者の気持ちを知ること
- 良いことは心からほめる、駄目なことは心から叱る、そんな人がいることの幸せ
- 具体的にアドバイスする事が重要

発達障害児に対する学習指導のポイント

- 発達障害児に対する臨床心理学的アプローチとして，応用行動分析・心理劇・認知行動療法（SST）・動作法・遊戯療法・TEACCHなど，様々なものが用いられている。

遊戯療法とは

遊びを媒介にした心理療法

その起源は1900年代の前半，児童分析のアンナ・フロイト（Freud,A.）やメラニー・クライン（Klein,M.），来談者中心療法の流れを汲むアクスライン（Axline,V.M.）などの臨床家による（深谷,2005）。

遊戯療法の方法

- 子供との関わりの中で，受容を中心とした方法
- 発達障害的な問題に対しては，課題訓練的な技法が取り入れられ，ゲームや活動を主体とする集団遊戯療法も発展している（深谷，2005）。

動作法とは

昭和40年代に成瀬悟策によって開発された心理療法の一つである。

人のからだの動きである「動作」を心理学的にとらえており，「動作」はその「動作」を行おうと「意図」することから始まり，その動きを達成するための「努力」があり，その結果「身体運動」が生じる。

動作法とは2

動作法は脳性マヒ児へのアプローチから始まり，現在は，自閉症，高齢者，不登校，PTSDなど幅広い分野で用いられるようになっている。

行動療法とは

問題行動，不適応行動，病的行動などといわれるものの発生と持続の姿を学習心理学の立場からとらえ，それらを学習理論にもとづく技法によって適応的に治療改善させようとする心理治療の方法。

心を育む指導のポイント:
心理劇とは

補足:心理劇とは

心理劇(サイコドラマ)とはモレノによって開発された集団精神療法であり、人間および人間を取り巻く状況を探求する科学である。

医学・教育・矯正・福祉・産業等の分野に適用されている。

心理劇の特徴

- 心理劇は心理療法であり、かつ集団療法である(ただの芝居やレクリエーションとは違う)。
- 心理劇のキーワードは自発性と創造性である。
- 心理劇は役割演技(ロールプレイング)などを通して参加者の問題を診断・発見・解決する。

心理劇における役割

心理劇ではいつもの役割から離れて自由に別の人間になって演技することが出来る。そうすることで新たな自分を発見したり、自分らしさに気づいたり、今までとは違う役割を果たすことも出来るようになる。

それを可能にするのが自発性と創造性である。

心理劇で何をするか
（実践の基本的枠組み）

- 時間は1時間くらい
- ウォーミングアップ⇒劇化⇒シェアリング
- 基本的ルール
  - –秘密を守る。
  - –参加の意思を尊重する。
  - –皆「～さん」付けで呼ぶ。
  - –役割解除は必ず行う。
- その他

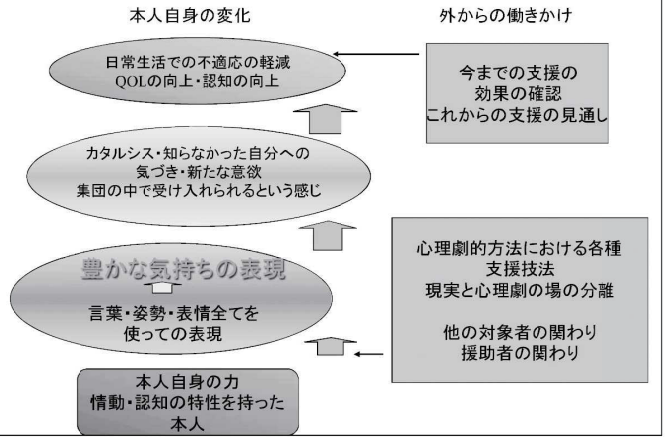
発達障害児・者に心理劇を適用した理由

1．表現の場：彼らの情動・認知の特性をいかし、独自の世界をのびのびと表現できる。

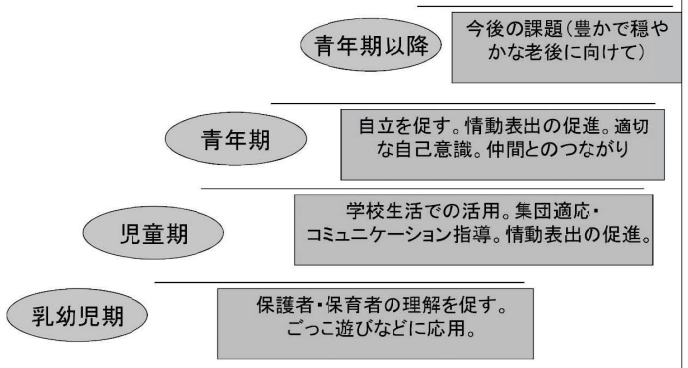
2．社会性向上の場：彼らの意欲を向上させ、社会との接点をみつけ、社会適応力を高める。

3．ピア・サポートの場：同じような症状を持つ集団内で理解してくれる人の存在がその人を成長させ、仲間意識が育つ。

発達障害の人に対する心理劇の効果



生涯発達援助の視点からみた発達障害児・者への心理援助の一つの考え



引用・参考文献

- 高原朗子　2007　発達障害のための心理劇
- 高原朗子　2009　軽度発達障害のための心理劇
- 高原朗子　2012　発達障害の生涯支援
- 杉山登志郎　2007　発達障害の子どもたち
- ダニエル・タメット　2007　僕には数字が風景に見える
- アスペハート　2004　他